

## 2022年度第2回豊岡市環境審議会 会議録

日 時：2022年8月29日（月）14時00分～17時00分

会 場：豊岡市役所本庁舎2階 大会議室

出席した委員：山室敦嗣、雀部真理、青柳順子、安藤有公子、木築基弘、高橋佳大、  
田原美穂、西垣由佳子、洞田美津子、増原直樹、村田美津子、山下正明

欠席した委員：戸田勝之、野世英子、吉本初司

傍聴者：武藤保貴

事 務 局：生活環境課 課長 成田和博

地球温暖化防止対策室 室長 井上浩二、主任 大逸優人、主事 岸谷依子

### 1 開会（司会：成田課長）

- ・会議の公開、会議録の公表を確認
- ・配布資料の確認

### 2 あいさつ

- ・山室会長より挨拶

### 3 協議（議長：山室会長）

【会 長】環境報告書第2部について審議会が出た意見を踏まえて、内容や評価を審議する。事務局から説明をお願いします。

【事務局】本日の環境審議会では、環境報告書の第2部と第6部について審議いただく。第2部については前回の審議会が出た意見を反映させているので、トピックスや評価、変更点を中心に意見いただきたい。第6部については、今回の審議会が出た意見をもとに事務局でとりまとめをする。事前に記入用紙「第6部環境審議会への意見」を配布しているため、市、市民、事業者ごとにそれぞれ評価・課題・期待することについて意見いただきたい。審議は目標像①の第2部、第6部の順番で目標像⑩まで審議する。また、全体に共通する変更点として、字体をユニバーサルデザインに変更した。

#### 目標像① 手入れの行き届いた豊かな森が、きれいな空気や水を育んでいます

【事務局】修正点について、グラフ「除間伐と植樹」の説明に、「「林業の担い手不足」が、間伐面積減少理由の一つに挙げられます。」を追加した。グラフ「間伐材供給量（朝来バイオマス発電所）」の説明について、「2020年度からは通常の供給体制に戻り、朝来バイオマス発電所との協定に基づく割当て量以上の供給実

績となっています」としていたが、2021年度の供給量の割当て量が3,300トンとなっており、世界的な木材需要の高まりと相なり、供給量が協定に基づく割当て量に達していなかったため、「2020年度からは通常の供給体制に戻っていますが、世界的な木材需要の高まりにより、用材としての供給が増え、燃料としての供給が減っています。」に修正した。グラフ「市施設での木質バイオマス利用機器設置数（累計）」の説明に、「2014年以降、公共施設への木質バイオマス利用機器の設置は行っていませんが、既に設置されている機器を積極的に活用していきます。」と追加した。トピックスについて、タイトルを「森林に手が入らないとどうなる？」とし、森林の水源かん養機能や二酸化炭素の吸収機能について記載している。評価について、間伐実施面積が減少していることを踏まえ、「間伐材が「用材」として供給・利用されているものの、間伐面積が減少しています。」を「▲」にし、「もっとがんばろう」の評価とした。

【会長】意見や質問があれば発言いただきたい。ないようであれば、第6部の目標像①にうつる。第5部「環境審議会意見の反映状況」も参考にしながら意見を発言いただきたい。

【委員】第5部は環境審議会の意見の反映となっているが、第2部で掲載されているような市の取り組みの紹介について主に掲載されている印象。審議会に出す意見ももう少し直接的な内容にし、はっきりとした答えが返ってくるようにしなければならない。また、昨年出た意見に対して、回答がなかったものや取り組みを行っていませんという回答は、そのままにして良いのか。市からの返答についても審議会でも議論する必要がある。

【委員】全体に言えることだと思うが、同じようなことが最初から最後まで繰り返し出ていて、読んでいく途中で分からなくなってしまう。各章で一番大事な要点にあたる部分がぼやけているため、議論しているのに全体の論点がとても曖昧になっているように感じる。読み慣れている方にとっては良いかもしれないが、初めて読む方にとっては難しい内容になっているため残念に思う。また、各担当課が担当している業務の内容について記載しているが、様々な課が同じ業務内容について繰り返し記載している。報告書として、初めて読む人でも頭に入ってきてやすいように、整理する必要があるのではないかと。第2部に関しては、但馬の山林の中で竹林が溢れている印象がある。竹林があることで良い影響もあると思うが、山林全体の生態系や土砂災害等の問題点について考えると、必ずしも良いものではないと思う。竹林対策として豊岡市で何か取り組みは行っているのか。また、個人が所有している山林なのか、共有の山林なのかが分か

らないため、荒んでいる山を見かけてもどうすれば良いのか分からない。山林の所有者が分かっている、所有者自身もどこからどこまでが所有範囲なのかが分かっていない現状。まずは、自分達が住んでいるエリアで何が出来るかを考え、知る機会を作ることが必要ではないか。

【会 長】表記の仕方も含め、審議会からの提案をどのようにまとめるかは、次回の審議会で最終的に確定できればと思う。日々、疑問に感じていることや市の環境政策で分かりにくいことがあれば、ご意見いただきたい。

【事務局】意見いただいたとおり、竹林に関しては様々な観点から問題となっているため、これまでボランティア活動で竹林の伐採を行ったり、加陽水辺公園で行われている「森のようちえん事業」でも竹林に手を加えようとする動きがある。だが、対策を講じても追いつかない程竹林が多いのが現状。また、森林の所有者が分からない件について、地籍調査の進捗率が11%程度にとどまっているため、森林事業者や行政も手を加えて良いか分からない。また、森林の所有権が引き継がれていない等、様々な事象が絡まりあって、調査の進捗をとめてしまっている。

【委 員】地籍調査の進捗率が11%程度というのは、森林面積のみか。

【事務局】確認する。

【委 員】第2部の林業の担い手不足について、生産年齢人口の減少率と林業従事者の減少率はどれくらい差があるのか。また、人口減少下で、人手不足を人以外で解消する方法を考えなければならないと思う。

【事務局】林業の賃金労働者数について、1980年で334人だったが2020年で54人まで減少しており、生産人口の減少と併せて林業の担い手も減少している。また、農林水産課で持続可能な林業を目指した計画として、現在森林林業ビジョンの策定に向け審議が行われており、今年度中に策定される予定となっている。

【会 長】今の提案を踏まえ、林業従事者数のグラフがあると良いと感じた。

【委 員】10年程前、出石の小野地区では、森の境界線が分からない若者に、地域の大人が森に直接入って教えるような取り組みがあった。

【委員】竹林対策について、竹を竹チップに変えて肥料として活用する等、様々な竹の活用法が分かれば、課題解決になりうる上に事業としても成り立つのではないか。

【委員】竹を伐採することと、活用すること両方セットで取り組んでいかなければならないと思う。また、林野庁の制度で竹林をある程度まとまった面積で申請し、竹を伐採して広葉樹を植樹すると補助金がもらえる制度があると聞いた。補助金を活用することも視野にいれながら、対策を考える必要があると思う。

【委員】成功事例の紹介として、兵庫県たつの市では竹の生産者の組合ができています。一斉にタケノコを作って加工し、製品化して販売している。更に、赤穂市等の兵庫県内の牡蠣の産地に竹で作ったカゴを提供している。また、丹波篠山市に竹を粉碎して活用する会社があり、使い切った竹を集めて粉々にし、肥料に変え、たつの市の竹林に還している。

#### 目標像② 里山が様々な利用され、関わる人が増えています

【事務局】まず、「農林業獣被害面積」及び「農林業獣被害額」のグラフについて、農業の被害面積と被害額が確定したので、数値を追加した。また、有害鳥獣の埋葬について「鳥獣保護管理法に基づき、捕獲物等は原則として持ち帰ることとし、やむを得ない場合に限り生態系に影響を与えないような適切な方法で埋設することとされています」と文言を追加した。トピックスについては、「但東野あそびくらぶ いつなっと」の活動について記載している。評価については、有害鳥獣の捕獲や防護柵の設置、緩衝地帯の整備が進んでおり、農林業被害面積や被害額は減少していることが明らかとなったため「○」とし、「この調子でがんばろう」の評価としている。

【委員】前回の審議会で鹿の駆除後、埋設することが基本だが、現実には埋められなくて放置されているという話が出たと思うが、現実には現実として報告書にしっかりと明記すべきだと思う。最終的な評価についても、駆除した有害鳥獣の処理について課題を残していることを述べても良いのではないか。私が住むエリアでは、罠にかかった鹿を撃って殺した後写真を撮る。その後殺した鹿を移動させるが、地域住民が歩くウォーキングコースの近くに放置されていると聞いた。実際に近くまで行くとひどい異臭がした。更に、運ぶ際も荷台に鹿を乗せるのではなく、軽トラの荷台に足をくくりつけて鹿を引きずるような運び方をしているように思える。取り組みの紹介だけでなく、こうした現状があることについても報告書に記載すべき。

【委員】 前回の審議会で駆除の現状について聞いたため、実際に鹿の駆除の様子を見に行った。すると、先ほどの委員が仰っていたとおりにトラックの後ろにロープを引っかけて鹿を引きずって運び、山の中に放置していた。鹿の頭数もかなり多いため、埋葬するとなると処理が間に合わない。この報告書を見ると現実と差異があるため、埋葬が基本だが現実には駆除後に放置されている旨明記すべきだと思う。

【事務局】 駆除後に埋葬をすることは鳥獣保護管理法で定められているが、これを行う猟師に強いると、駆除さえもしてもらえなくなる可能性がある。環境審議会の中で意見があったことは担当課に伝えるが、事情があることをお察しいただきたい。

【委員】 駆除について、決まっておりにするように伝えたとしても、ほとんどの方がしないと思う。駆除後に引きずって運んでしまうのは、重くて一人で持ち上げられないため。捌いて皮と骨だけになっても大きく重さもあるため、穴を掘って埋めることはできない。ルール自体がありえないため、猟師の方々も苦労している。課題を解決するためにも、食肉処理施設の設置について検討ができないか。

【委員】 子どもたちが学校に通う通学路に、血がついていることもある。駆除していただいていることはありがたいが、人目に付くところは避けるような気づかいをしてほしい。

【委員】 処理が一番大変だと思うが、軽トラで引きずって運んでいることは知らなかったのが驚いた。知り合いから、捕獲した動物を荷台にあげるのが大変なので、軽トラにウインチをつけてロープで荷台に引っ張り上げると聞いた。個人でウインチを買うのは大変だと思うので、購入補助を設けても良いのではないか。また、市で焼却施設なり埋設施設のようなものを作れるのであれば、その場で放置という事例が減るのではないか。今は補助金をもらうのに写真を提出していると思うが、実際に駆除した動物を持ってきてもらうことで、偽造防止につながると思う。施設まで直接搬入するのは猟師の方々も大変だと思うので、補助金の額をあげる等変更すると良い。

【委員】 被害額が減少していると記載されているが、実際、被害は大きく変わっていないように思える。被害額や被害面積の数値が載っていても仕方がないと思うが、評価では、「この調子でがんばろう」となっている。これは、なんらかの

計画があつてこの評価としているのか。

【事務局】市は2014年から鹿の年間捕獲数6,500頭を目標としており、これを達成しているところも加味した上で、「この調子でがんばろう」の評価としている。

【事務局】鹿は繁殖力が高く一自治体では手に負えない程数が増えてしまっている。それでも目標数を設定して、6,500頭以上の捕獲を達成しているという評価でご理解いただきたい。

【委員】目標値となっている6,500頭という数値は、何か根拠があつて設定されたものか。

【事務局】担当外のため、数値の根拠については認識していない。

【会長】いただいた意見を踏まえ報告書の表記を検討し、次回の審議会で再度提案する。

### 目標像③ 使われていない農地の利用が進み、生きものの豊かな田んぼが増えています

【事務局】グラフ「学校給食での地場産物利用率」について、2021年度の数値はまだ未確定（9月に数値が確定する予定）。前回の環境審議会で説明したとおり、これまでは食材の数（食材数ベース）を数値目標（30%以上）とされていたが、第4次食育推進基本計画の中で金額ベースの目標（90%以上）に変更となった。ある程度データがたまつた段階でグラフの体裁を変更する。グラフ「ビオトープ水田面積」について、小学校区ごとの面積及び2021年度に面積が減少した理由を28ページに掲載している旨追記した。トピックスは、「グッドローカル農業推進室」が発足した内容について記載。評価について、これまで「学校給食での地場産物の利用率が目標利用率を達成している」としていたが、食材ベースから金額ベースへ数値の表記が変更となり評価ができなくなったため、「学校給食での豊岡産野菜利用率が目標利用率を達成している」に項目を変更した。尚、目標値である30%を超えているため、「○」とし、「この調子でがんばろう」の評価としている。

【委員】評価の方法について、各目標像のうち一番良い結果を選んで評価項目を設定しているのか。

【事務局】前年度やそれまでの年度から、比較ができるような項目を記載している。他の

目標像についても、グラフの数値だけでは判別できない評価もあるため、評価項目として適切だと思う内容を事務局が判断し設定している。

【委員】「この調子でがんばろう」という評価となっても、必ずしも全体が良い訳ではないという認識で合っているか。

【事務局】そのとおり。

【委員】それぞれの指標の平均値で評価を出すということはしないのか。

【事務局】評価方法としては、「よく頑張りました」「この調子でがんばろう」「もっとがんばろう」の3項目があり、各評価項目の○の数と▲の数で項目を決めている。▲より○の数が多く、○の数が3つ以上であれば「よく頑張りました」、▲より○の数が1～2つ多い場合は「この調子でがんばろう」、○の数と▲の数が同数あるいは▲の数が多い場合は「もっとがんばろう」としている。評価方法については分かりやすいように、第2部中に記載するようにする。

【委員】私の住んでいるエリアでは農会があり、稲作をしている人たちは農会に入っているが、畑だけ作っている人たちは農会に入っていない。これは、他の地区でも同じか。また、稲作面積や金額等、農会からのデータも環境報告書に含まれているのか。

【事務局】農会に関しては、稲作をしている人でも入っていないケースがあると聞いている。また、数値については、農林水産課がとりまとめているデータの中で、作付面積等農会からのデータが反映されている部分がある。

【委員】農会に属していなくても農業をしている人がいるということは、農会のデータが反映されている場合、その数値は実数ではないということか。

【事務局】後日確認し回答する。

【委員】目標像③の目標と評価の整合性が合っていないように感じる。目標としている、「使われていない農地の利用が進み、生きものの豊かな田んぼが増えています」の使われていない農地が耕作放棄地のことを指しているのか、その土地を再度再生して農業をすることを指しているのか。後者であれば、今の評価で良いと思うが、前者であれば違和感を感じる。

【会 長】評価で「▲経営耕地面積が減少している」としているが、環境創造型農業作付面積の割合が増加しているという評価に変える方法もある。

【事務局】環境審議会の中で、地元の食材が販売され、食べられていることを載せるよう意見があったため、元々報告書にはなかったが、たじまんまの販売実績を入れるようになった。それまでは、冬期湛水や環境創造型農業の普及が進んでいることを評価に入れていた。たじまんまの販売実績を入れたことで、評価項目を変えた背景があるが、意見があったとおりに目標と評価が違うように思う。今年は評価内容を変更することは難しいが、今後変更について検討したい。

【委 員】たじまんま以外でも地元の食材を販売しているお店はあると思うので、実績やデータに入れられるのであれば、その数値も入れた方が良い。

【委 員】「▲経営耕地面積が減少している」とあり、評価が「この調子でがんばろう」となっているが、学校給食等で地元の食材を食べることや、環境創造型農業の取り組み等、日本国内でほとんど取り組まれていない事例だと思うので、評価を上げられるように検討できないか。

【事務局】意見いただいたとおり、経営耕地面積が減っているにも関わらず、環境創造型農業の面積や作付面積も増えている。国が目標値としている数値よりも高い水準にあると思うので、経営耕地面積は減少しているが、環境にやさしい農業は増えているとし「○」の評価とする。

【委 員】先ほど意見があったとおり、目標の文言、指標にズレがあり、評価がしにくいように思う。中には、評価できるような良い取り組みもあることが分かったので、新たに項目を設けて、良い取り組みについてはしっかり評価ができるようにすると良いのではないか。

【委 員】目標像③には、「使われていない農地の利用が進んでいる」とことと、「生きものの豊かな田んぼが増えている」という2つの軸がある。そのため具体イメージに挙げている例が、2つある軸のうち片方のみ当てはまっているため、指標や評価でズレが生じているように思う。

【事務局】今年の報告書には反映できないかもしれないが、大変良い意見をいただいたので、表記について検討する。

#### 目標像④ あちこちの川や海辺で、子どもたちの楽しむ声がきこえてきます

【事務局】不法投棄対策のグラフの説明に、「市のパトロール班が定期的に巡回しています。」を追加した。活動例の浜清掃について、港中学校、港小学校、港認定こども園、区長会が実施した気比の浜、田結の浜で行われた清掃活動について追記した。トピックスについては、竹野海岸での清掃活動について記載した。評価については、「子どもたちの川での体験活動が定着している」、「清掃活動に取り組む方々が増えている」を「○」、「不法投棄を減らすための対策を講じているが、状況は改善していない。」を「▲」とし、「この調子でがんばろう」の評価としている。

【委員】今年の竹野浜はこれまでで一番漂着ごみが多くて大変だった。ただ、観光客が置いて帰るごみの量が減ったり、川下に流れ着く葦の数が減る等、何度も啓発してきたからこそ現状が変わってきたと実感している。

【会長】目標像④の第6部について提案や意見があればいただきたい。

【委員】2020年度にも記載があるが、観光客に対する分別マナーについては継続して記載してほしい。ごみの総数は減っているかもしれないが、相当な量のごみが出ているのと、観光客の中にはマナーが悪い方も見受けられるため、継続して啓発を行ってほしい。竹野の海岸で清掃をしていると、外国から流れ着くごみが多くある。難しいかもしれないが、近隣の国に対しても啓発が必要。

【事務局】引き続き、観光客に向けた注意喚起を行っていきたいと思う。また、外国から日本にごみが流れ着くように、日本から流出したごみも海外に漂着している。お互いに不法投棄をしない生活や文化が根付く必要があるため、数か国語で書かれた看板を設置する等対策を行っていきたい。

#### 目標像⑤ コウノトリも住める豊かな生態系が、バランス良く保たれています

【事務局】グラフ「コウノトリ野外個体数」と「野外コウノトリの繁殖状況」の2021年度の数値を追加したことと、説明に「常時60羽程度のコウノトリが市内に生息していると推測されています。」という文言を追加。グラフ「国交省自然再生事業湿地整備面積」について、可視化できると良いという意見をいただいたため、河川整備計画の位置図を掲載した。トピックスは、豊岡自然再生アクションプランに取り組む地域について、出石町日野辺区と鳥居区で行われている取り組みについて記載した。評価について、項目「野外で暮らすコウノトリの個体数が増加している」から「野外でコウノトリが順調に繁殖している。」に

変えて「○」とし、「この調子でがんばろう」の評価とした。また、評価項目「▲外来種駆除が難航している」の補足説明として、外来種についての説明書きを追加した。写真も掲載する。

【委員】生後1年未満のコウノトリが交通事故に遭って怪我をする、または死亡する例が多いため、こうした現状があることを記載すると良いのではないか。

【事務局】指摘のとおり記載する。

【委員】また、豊岡市内で見られる外来種については、今年新たに発生している動植物がないか確認が必要。

【事務局】例として記載している外来種以外にも、危惧すべき外来種は多くいると認識している。全て掲載すると1ページ、2ページでは足りないため、比較的影響の大きい外来種に絞って掲載している。

【委員】外来種の駆除について難航していることが分かる指標を掲載することはできないか。

【事務局】外来種の駆除を定量的に測ることが難しい。数として示すことは難しいが、数年前、豊岡市内の外来種リスト（ブラックリスト）を作成した。どれくらいの外来種が豊岡にいるのかは掲載できるかと思うので、検討する。

【委員】生物はその場に定着せず移動したり、植物も大きくなってからでないと分からないケースがあるため、ある一定の期間だけで調べるのはかなり難しい。外来種駆除について、まずはどれだけいるかを先に調べてから、重点的に駆除する対象を決めることが重要に思える。学校等で写真を撮影しておおよそどのエリアにどの外来種がいるかを把握する方法もある。

【委員】外来種駆除について、専任の地域おこし協力隊を募集したり、豊岡市で専属の駆除職員を任用する等の対応がとれると良い。

【委員】評価で外来種について突然出てくるのは違和感があるため、指標で外来種について記載されていると良い。

【事務局】外来種は在来種を駆逐してしまうため、まず市民の皆様には現状を知っていただ

くことが大切。今後も強く市民の方々に向けた注意喚起や啓発を行うよう、第6部で審議会の意見として掲載する。

【委員】特定外来生物について、市民でも適切な駆除の方法がきちんと分かるようにすると良い。

【委員】外来種の説明書きについて、「在来の生きものに悪影響を及ぼしています。」とあるが、外来種すべてが在来の生きものに悪影響を及ぼすわけではない。例えば、オオキンケイギク等、一部の侵略的な外来種が悪影響を及ぼすことを市民にも理解してもらうようにしなければならない。書き換える場合、「在来の生きものに悪影響を及ぼしています。」を「中でも、在来の生きものに悪影響を及ぼす外来種を侵略的な外来種と呼びます。」とすると、語弊がなくなると思う。どの外来種が、具体的にどんな被害を招いているのかを押さえて、優先度が高いものから対応することが重要。外来種駆除が難航している点について、豊岡のどの地域にどの外来生物がどんな悪影響を及ぼしているか、典型的な例があれば掲げておくと分かりやすい。

【事務局】いただいた意見のとおり修正する。オオキンケイギクの駆除については豊岡市のホームページに掲載しており、根から抜き取ることや、袋に入れて天日干しをする等周知を行っている。オオキンケイギクだけでなく、他の外来種についても駆除の周知を行う際は法に基づいて適切な対応をするように啓発していきたい。

【委員】お年寄りの方々はホームページを見る方が少ないと思うので、紙媒体での周知も行う方が良い。

#### 目標像⑥ 様々な世代の人々が、地域の祭りや行事を楽しみ、未来へとつなげていきます

【事務局】目標像⑥については修正点や追加箇所はない。トピックスについて、竹野焼板イベント「あつまれ～！ヤキータ！」及び城崎コミュニティが取り組まれている「縁が和プロジェクト」について記載。評価について、前回の審議会で議論はなかったが、歴史博物館「但馬国府・国分寺館」における公開講座の開催数と参加者数が大きく増加していたため、「○」とし「よくがんばりました」の評価とした。

【委員】豊岡市では、小学校で必ず歴史博物館を訪れるような取り組みを行っているのか。

【事務局】担当課に確認する。

【会 長】第6部について提案があればご意見いただきたい。

【委 員】伝統を継承していこうと思う市民がたくさん出てこない、支援ばかりをしても担い手が全然いないという形になってしまう。市の支援に頼るだけでなく、市民の中でも伝統を残していくような心構えや意識を持つ必要がある。

【会 長】意見を反映し、次回提案する。

#### 目標像⑦ 子どもたちが、身近な地域の自然についてよく知り、大切にしています

【事務局】ビオトープ水田について、「2021年度は管理（年間通じての湛水等）が困難なビオトープを水田ビオトープ維持管理業務委託契約から外し、新たに八代、弘道、福住の3校区にビオトープが設置されました。」と追記した。トピックスについて、「第6回コウノトリ未来・国際かいぎ」の開催について記載した。評価について、「コウノトリ KIDS クラブに定員以上の応募がある」、「人と自然の共生を学ぶ高校の研究活動が定着している」を「○」とし、「この調子でがんばろう」の評価とした。

【委 員】小学校の生きもの調査について、2012年まで30校、2013年から2020年まで29校、2021年から27校とあるが、この校数は何を指しているのか。

【事務局】市内の小中学校の数を指している。統合により年々数が減っていることを表しているが、分かりやすい表記に変更する。

【委 員】2021年度の研究に市内の高校5校の取り組みについて記載されているが、近畿大学附属豊岡高校の自然科学部の取り組みや、プラスチックごみ削減対策実行計画策定委員会に参加した高校生たちについても、来年度以降で構わないので取り上げてほしい。

【委 員】子どもの野生復帰事業について、植村直己冒険館機能強化事業に引き継がれるとあるが、引き継がれた後も同じ事業内容なのか。

【事務局】子どもの野生復帰大作戦は地域に出向いて、その場の自然を見て感じて、体験するような内容となっていたが、植村直己冒険館機能強化事業に引き継がれて

からは、キャンプの方法や道具の使い方を学ぶもので、事業内容が異なっている。子どもの野生復帰大作戦参加者数を表に記載しているが、内容が異なっているため来年度以降はグラフを取り下げること検討する。

**目標像⑧ 市民みんなが、ごみの減量化を実践し、1人あたりの排出量が徐々に減ります**

【事務局】目標像⑧について、大きな修正点や追記箇所はない。トピックスは、「豊岡市プラスチックごみ削減対策実行計画」を策定した内容について記載している。併せて、実行計画の内容について確認できるよう二次元バーコードを掲載している。評価は、「市民一人当たりのごみ計画収集量が減少している」を「○」とし、「この調子でがんばろう」の評価としている。

【委員】先日、リフィル豊岡が立ち上がったと聞いたが詳細を知りたい。

【事務局】リフィルとは、マイボトルに水道水を給水できるスポットを登録・可視化し、ペットボトル等の使い捨てプラスチックの利用を減らし水道水の利用を増やすことを目的とした団体のこと。マイボトルで水道水を汲める給水スポットを登録するには地域リフィルという団体を立ち上げ、登録することが必須となっている。地域おこし協力隊員と神鍋で民宿を営んでいる方が共同代表となり、リフィル豊岡を発足させた。市はサポートとして関わっており、公共施設の担当課と話し合い、マイボトルが使える施設情報をリフィル豊岡に提供している。

【委員】補助金等の金銭面でのサポートではなく、情報のみ提供しているという認識で良いか。

【事務局】そのとおり。

【会長】目標像⑧の第6部について提案があればご意見いただきたい。

【委員】高校以上になると食堂における食品ロスが多い。学校側が意識して状況を変える取り組みを行う必要がある。教育委員会が直接関われる分野ではないかもしれないが、アプローチも考える必要がある。また、コミュニティが主体となれるリユースの取り組みとして、いらぬ物を持ち寄ったバザーを開催したりフリーマーケットアプリを活用し、地域住民がいらなくなった物を代わりに販売する事務局を作る方法もある。

【委員】「家庭科の調理実習で食材を無駄にしない切り方やごみの分別を指導するなど環境に配慮した啓発や教育をしてください。」と提案し、その返答が「地場産物を取り入れた学校給食、学校園や学校田での栽培活動、SDGs を結び付けた環境教育、家庭科等の学習を通して、食品ロスの現状と対策、自分にできることについて学んでいます。」とあり、ごみ分別を指導するとは書いていないので、もう一度提案したい。

【委員】高齢者のみの世帯になると分別ができない場合もある。分別用の容器を市の予算で作る等、なにか対策を検討できないか。

【事務局】高齢者の単身世帯が増えてきていることで、ごみ出しができない現状があるという話は聞いている。一部の都市部では、個別で高齢者宅へのごみ収集が行われており、豊岡市でも協議している。集めるにしても、分別ができていることが前提となるため、家庭内や近所同士で共助することが大切。また、市で分別用のごみ箱を配布しても、そのごみ箱自体が最終的にごみになる可能性が高いことから、できるだけ家にあるものを活用することで対応いただきたい。

#### 目標像⑨ 市民みんなが、楽しみながら省エネ行動を実践し、再生可能エネルギーの利用も増えています

【事務局】グラフ「大規模太陽光発電所 年間 CO<sub>2</sub>削減量」と説明を追加。CO<sub>2</sub>削減量は、年間の発電量に環境省が毎年公表している調整後排出係数をかけて算出している。トピックスについて、超小型電気自動車「C+POD（シーポッド）」を市の公用車として導入した内容について記載している。評価について、「住宅用太陽光発電設備の設置が広がっている」、「メガソーラーによる発電が順調である」を「○」とし、「この調子でがんばろう」の評価としている。

【委員】公共交通機関の利用について、市の取り組みや現状、公共交通機関の積極利用について、もっと市民に向けて発信すると良い。

【事務局】会議の終了時間を電車やバスの時刻表に併せて設定している。CO<sub>2</sub>排出量削減も目的の一つだが、地域の公共交通機関を守ることが主の目的となっている。城崎温泉より西の JR 路線が赤字路線として公表された。県庁への出張の際は公共交通機関を使うようルール制定された近隣自治体もある。公共交通機関を積極的に活用し、乗ることで守らなければならない。

【委員】再生可能エネルギーを導入する方向性は良いと思うが、生物多様性に大きく悪

影響を及ぼすため、その旨記載が必要ではないか。

【事務局】 生物多様性について、第2部にも記載する。

【委員】 売電期間は20年で終了するが、パネルは20年以上活用できる。使えるパネルを廃棄するのはもったいない上に環境負荷もかかるため、売電期間が終了した後の活用方法を検討しておくべき。

#### 目標像⑩ 環境を良くすることで経済が活性化され、交流も広がっています

【事務局】 グラフ「環境経済認定事業」の説明に、「認定事業の実績について、毎年報告が義務付けられており、認定事業が実施されなくなった場合、認定は取り下げられます。」と追記した。併せて、認定事業者が取り下げられた部分をグラフに反映できていなかったため、新規認定事業者数と併せて、取り下げられた事業者の数値もグラフに反映した。「市外からのボランティア活動による交流・地域活性」及び「市外からのボランティア件数」に「宿泊を伴う」という文言を追加した。評価について、「環境経済認定事業が浸透している」、「コウノトリ育むお米の海外輸出が順調に進んでいる」を「○」とし、「この調子でがんばろう」の評価とした。

【委員】 人・もの・情報の交流について、情報の交流であれば、全国のコウノトリ目撃情報について記載があると良いのではないか。

【事務局】 意見のとおり、情報の交流について反映できていない。使用可能なデータがあるか確認する。

#### 4 報告

- ・2019年度温室効果ガス排出量について
- ・2022年度地球温暖化対策の取組みについて

#### 5 その他

- ・第3回環境審議会について
- ・委員報酬の振込について

#### 6 閉会

- ・雀部副会長あいさつ